

私のおすすめ この1冊!

日本歯科評論増刊 2018

CAD/CAM レジン冠

失敗しない保険治療のために押さえておきたいポイント

坪田有史 編著

A4 変判・138 頁・定価 (本体 5,800 円+税)

2018 年 10 月 11 日 ヒョーロン・パブリッシャーズ刊

須崎 明

(愛知県北名古屋市・医療法人ジニア ぱんだ歯科)



■日本人による日本人のための本

本書の特徴を一言で表現すると「日本人による日本人のための本」といえよう。日本ではCAD/CAM用ハイブリッドレジンブロック（以下CAD/CAM冠）を用いた歯冠修復は、世界の中でも最も多く臨床に用いられている。

この背景には、日本の国民皆保険制度のもと、本修復法が保険収載されたことが大きな要因となっている。だが、ジルコニアをはじめ、CAD/CAMによるさまざまな材料を用いた修復法がある中で、CAD/CAM冠は物性や接着操作の点で決して容易な歯冠修復法とはいえない。

そのような流れの中で、本書では本修復法の日本での医療背景はもちろんのこと、本修復法の失敗例から成功のポイントまで、文献考察や研究データ、臨床例を中心に、第一線で活躍している研究者や臨床家だけでなく、歯科技工士の目線でも詳細に解説されている。

さらにはメーカーにより、CAD/CAM冠ブロックの最新情報も紹介されている。ここでは各メーカーのブロックのラインナップや開発コンセプト、特徴がわかりやすくまとめられており、一定の基準をクリアしつつも、CAD/CAM冠ブロックは

それぞれの特徴を持ち、進化していることが理解できた。これには先に述べた過去の日本のCAD/CAM冠臨床のトラブルを参考にし、製品開発をしている背景が影響していると推察される。

■CAD/CAM冠臨床、成功の秘訣

CAD/CAM冠臨床を成功させるポイントは「確実な支台歯形成と接着操作」とよくいわれる。日々の臨床の中では、それらを基本としつつも、本書で紹介されている最新の情報を取り入れながら、支台歯形成を行い、CAD/CAM冠ブロックを選択し、CAD/CAM冠を作製し、装着していくことが、CAD/CAM冠臨床を成功させる秘訣であると実感した。

本書によると、CAD/CAM冠の開発当初のトラブルは脱離だけでなく、審美性の低下や摩耗さらには破折も多く認められたとされている。最近ではCAD/CAM冠ブロックの物性の向上から、脱離がトラブルの中心となっており、そのトラブルは装着後、短期間(数カ月から2年程度)に発生していると述べられている。このような結果から、短期間で発生するトラブルを防止すれば、CAD/CAM冠臨床は長期の予後安定が期

待できる、ということになる。

また、CAD/CAM冠の装着には確実な接着が必要不可欠となる。本書では歯面処理材を使用したセルフアドヒーシブレジンセメントとプライマー併用型接着性レジンセメントの有効性が紹介されていた。保険診療においては装着材料のコストも重要になるが、CAD/CAM冠の脱離を回避するためにはコストだけにこだわるのではなく「良好な予後を得るための投資」として装着材料を選択する必要があると感じた。

■世界の歯科医療にも続く

日本人がこれまで行ってきたCAD/CAM冠臨床から学び、それを自ら考察し、軌道修正して本修復法の質を向上させ、日本人自ら本修復を実践し、成功させていくことが、予後の良好な治療法を確立する近道となるのではないだろうか。それだけではなく、一人ひとりの臨床家が、保険診療の中でCAD/CAM冠を算定して実績を伸ばし、医療保険制度に本修復法の有用性をアピールすることが、さらなる適応拡大につながると思われる。

これは日本の歯科医療のためだけでなく世界の歯科医療に続くと、筆者は本書を拝読して強く感じた。